

○研究の概要

幼児・児童・教職員の実態

幼児

○小学校ってどんなところかな。どきどきするな。きんちょうするな。



教職員

① 幼稚園での経験が小学校以降の学びにつながるようにするには、どうしたら良いだろう。

② 異なる園から来た子どもたちの様々な経験を、どう小学校の学びにつなげていけば良いだろう。



新1年生

○いろいろな保育園、幼稚園、こども園から入学してくるみんなと楽しく勉強できるかな。



育みたい幼児の姿・目指す児童の姿

5歳児の姿

夢中で遊びこむことを通して、意欲をもって物事に取り組める幼児

1年生の姿

友達と関わることを通して、学びに向かっていく児童

2年生の姿

活動に没頭することを通して、学び続ける児童

研究の仮説

- 教職員間の連携を深め、相互理解を図ることで、幼児教育と小学校教育がより円滑に接続できるのではないかと。
- 5歳児から小学校低学年までを連続した時期として捉えた指導計画を開発し、それに基づいて実践を積み重ねることで、より主体的に学ぶ子どもが育つのではないかと。

研究の内容

- 幼稚園と小学校の合同研究組織による研究会等の実施
- 「5歳児から小学校低学年までを連続した時期として捉えた指導計画」の作成と実践
- 小学校施設内に設置した「ななはけラボ」の活用計画の作成と実践
- 幼児・児童の双方にとって効果的だと考えられる交流活動の通年実施



○「ななはけラボ」の環境について

幼小の円滑な接続を図るための手だての一つとして、第七峽田小学校の校舎内に「ななはけラボ」を設置している。幼児や児童が様々な場面でこの部屋を活用していくことを通して、教育効果をさらに高めることをねらっている。1年間を5つの時期に分け、期ごとに幼小の教職員が話し合い、その時期に適した環境構成をおこなっている。子どもたちが活動の中で主体的に場作りをすることもある。これにより、幼児にとっては安心して自己を発揮し小学校への親しみをもつ場となり、児童にとっては一層の学習効果が発揮できると期待される。



季節や活動内容に合わせた柔軟な環境構成の工夫ができる



○「5歳児から小学校低学年までを連続した時期として捉えた指導計画」について

